

感染症に留意
したい季節に
なりました

今回の冬号では、感染症の中でもよく知られているインフルエンザや新型コロナウイルスに加え、例年と比べてかなり多い状況が続いている「百日咳(ひやくにちせき)」と、10月中旬に県下全域に「流行発生警報」が発令された「伝染性紅斑」について掲載しました。感染症対策をして感染予防を心掛け体調を整えるようにしましょう。

「感染症」とは細菌、ウイルス、真菌、寄生虫などの病原体(＝病気を引き起こす微生物)が体内に侵入し、増えることによって体に異常(症状)が生じる状態のことです。感染症の原因(感染源)となる病原体の種類も、感染経路もさまざまですが、病原体の体内への侵入経路を遮断することが「感染予防」につながります。

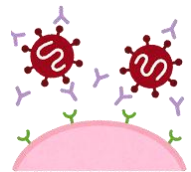


インフルエンザ ・ 新型コロナウイルス



～インフルエンザ～

今年はすでに10月初旬に流行シーズンに入っています。



	かぜ	インフルエンザ	新型コロナウイルス
潜伏期間（感染してから症状が出るまでの期間）	2～4日間	2～5日間	1～14日間
感染経路	飛沫・接触	飛沫・接触	飛沫・接触・エアロゾル
症状のでる場所	のど、鼻	のど、鼻、全身	全身、呼吸器。味覚や嗅覚など
熱のでかた	38度前後の微熱	高熱	微熱～発熱
進行のしかた	ゆるやか	急激	約1週間後に急変することもある
治療法	対症療法	抗インフルエンザ薬	対症療法
ワクチン	なし	ある	ある

参考資料：テルモ体温研究所

百日せき

～百日咳～ 例年と比べて、かなり多い状況が続いています。

百日咳菌の感染によって、特有のけいれん性の激しい咳発作(痙攣発作 けいがいほっさ)を特徴とする急性の気道感染症です。

百日咳は世界的に見られる疾患で、いずれの年齢でもかかりますが、小児が中心となっています。百日咳の予防には、5種混合ワクチン(DPT-IPV-Hib)等の接種が有効です。



激しいせきによる



伝染性紅斑

でんせんせいこうはん

両頬に赤い発しん(紅斑)が出ることから「リンゴ病」とも呼ばれる小児に多い感染症「伝染性紅斑」は、ヒトパルボウイルス B19 による感染症です。小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」と呼ばれることもあります。

～伝染性紅斑～

10 月中旬に県下全域に「伝染性紅斑流行発生警報」が発令されました。本警報の発令は、現行の感染症法が施行された平成 11 年以降初めてとなります。



○ 症状

- ・両頬、続いて手足に網目状やレース状の紅斑(赤い発しん)が現れます。多くの場合、発しんが出現する 7 から 10 日前に、微熱やかぜのような症状が出現することがあります。
- ・過去に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産を引き起こす可能性があり、注意が必要です。

○ 感染経路

- ・飛沫感染: 咳やくしゃみの時の飛沫の中に含まれるウイルスによって感染
- ・接触感染: ウイルスのついた手を介して口や鼻などの粘膜から感染

○ 感染予防

伝染性紅斑には発病を予防できるワクチンや特効薬はありません。日頃から「手洗い・せきエチケット」といった感染対策を生活習慣にすることが大切です。

※インフルエンザや新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症の予防には、「**手洗い**」「**マスクの着用を含む咳(せき)エチケット**」「**換気**」などが有効です。さらに心がけましょう。

